

## 鉄鋼標準試料委員会ニュース

No. 44

## 鉄鋼標準試料委員会年間活動報告—1981年

## 1. 会議開催状況

昭和56年中は、本委員会2回、常任委員会5回の合計7回の会議を開催して、日本鉄鋼標準試料(JSS)を製造頒布した。

会 議	開 催 日	会 場	出 席 者
第58回本委員会	昭和56年5月14日(木)	経団連会議室 1106号	川村委員長ほか 17名
第59回 "	" " 12月11日(金)	" 1104 "	" ほか 16名
第55/VI回常任委員会	" " 2月20日(金)	協会会議室	大槻幹事ほか 10名
第56/I回 "	" " 4月17日(金)	大同特殊鋼(株)大室高原荘	川村委員長ほか 16名
第56/II回 "	" " 7月17日(金)	経団連会議室 1106号	" 14名
第56/III回 "	" " 9月25日(金)	日本ビル別館 B <sub>2</sub> 会議室	大槻幹事ほか 13名
第56/IV回 "	" " 10月23日(金)	経団連会議室 903号	川村委員長ほか 13名

## 2. 日本鉄鋼標準試料(JSS)の更新又は新製品化状況

昭和56年中に更新又は、新製品化した日本鉄鋼標準試料(JSS)は、次の29種であつた。

シ リ ー ズ	JSS No.	品種数	素材提供会社
炭 素 鋼	023-4, 030-3, 050-3, 061-2, 065-1,	5	新日本製鉄(株)
低 合 金 鋼	152-8, 154-8, 155-8	3	(株)日本製鋼所
炭 素 専 用 鋼	200-7, 209-2	2	新日本製鉄(株)
い お う 専 用 鋼	244-2, 245-1	2	川崎製鉄(株), (株)神戸製鋼所
窒 素 専 用 鋼	369-2	1	新日本製鉄(株)
アルミニウム専用鋼	331-3	1	"
酸 化 鉄	802-3	1	輸入品
焼 結 鋳	851-4	1	日本鋼管(株)
強 靱 鋼	500-5, 501-5, 502-5, 503-5, 504-5, 505-5	6	住友金属工業(株)
高 速 度 鋼	606-7, 607-7, 608-7, 609-7, 610-7, 611-7	6	日立金属(株)
マンガン鋳石	861-1	1	フェロアロイ協会
		29	

## 3. 検討事項

## 3.1 新品種の製造

- (1) 高純度鉄(2種)検査線作成時の鉄源及び極微量元素定量標準試料として使用するもの…現在分析中
- (2) ほう素専用鋼シリーズ(4種)素材の成分偏析調査終了, 分析中
- (3) フェロアロイ(4種)フェロニッケル, フェロモリブデン, フェロニオブ及びフェロバナジウムの調製試料について粒度構成や粒度区分別主成分の変動調査終了, 分析中
- (4) イスコール鉄鋳石調製試料について粒度構成や粒度区分主成分の変動調査終了, 分析中
- (5) 南ア産マンガン鋳石, 化合水分について検討したが定量精度が悪く, 標準値を決定できなかった。

## 3.2 更新品種の検討

- (1) 酸化鉄(JSS 802-3)T. Fe以外の微量成分についても標準値を表示するよう化学分析分科会と協議中
- (2) ほたる石(中国産)(JSS 881-3)調製試料についての粒度別分析及び, びん間変動調査済, 分析中
- (3) 普通鋼シリーズA(機器分析用)素材製造・偏析調査済, 調製中

## 3.3 その他

- (1) フェロクロムを次回更新する場合は, 市場に最も多く流通している品種に合わせる。
- (2) ステンレス鋼シリーズA(機器分析用)の素材製造依頼を(株)神戸製鋼所に変更する。
- (3) 標準化シリーズA及び微量元素シリーズBで作成されるほう素定量用検査線の層別原因について発光分光分析分科会に検討を依頼し, 報告を受けた。その結果分光分析的には解明できなかったため改めて化学分析分科会にニオブ共存時のほう素定量方法について検討を依頼することにした。
- (4) 機器分析用標準試料に関する懇談会を開催して(1月23日), 鉄鋼メーカー側の利用状況や要望事項を聴取し, 今後の参考にした。
- (5) JSSの利用状況についてアンケート調査を行った。  
 { 回答数: 209件(アンケート発送総数の32.4%)  
 { JSS使用所数: 148所(回答所の70.8%)

- (6) JSS に関する講習会を東京及び大阪の2ヵ所で開催するよう準備を開始した。  
 テーマ: JSS の製造から利用まで——JSS を正しく理解していただくために——  
 開催: 東京会場: 昭和 57 年 2 月 4 日  
 大阪会場: 昭和 57 年 2 月 10 日
- (7) 低合金鋼シリーズ A (機器分析用) についての評価を発光分光分析分科会及び蛍光 X 線分析分科会に依頼して報告を受けた。  
 井樋田睦, 佐藤利光: 機器分析用低合金鋼シリーズ標準試料の評価, 鉄と鋼, **68** (1982) 2, p. 236  
 安田 浩: 蛍光 X 線分析法による機器分析用標準試料の評価—日本鉄鋼標準試料低合金鋼 A シリーズ—, 鉄と鋼, **68** (1982) 1, p. 65
- (8) 鋼中炭化物抽出分離定量用標準試料の調製について, 報告を受けた。  
 成田貴一: 鋼中炭化物抽出分離定量用標準試料の調製, 鉄と鋼, **67** (1981) 16, p. 2603

新刊案内

## “わが国における酸素製鋼法の歴史”

### 刊行のお知らせ

日本鉄鋼協会 鉄鋼科学・技術史委員会編

標記図書が昭和 57 年 1 月末 日本鉄鋼協会より出版の運びとなりました。

本報告書は、「今世紀における鉄鋼の科学・技術の発展の歴史を調査研究し、現代における研究、開発課題の把握に資すること」を目的として、日本鉄鋼協会に設けられた鉄鋼科学・技術史委員会酸素製鋼ワーキング・グループの 5 年余に及ぶ研究の成果をとりまとめたものである。

目次にも示されているように、本書は、LD 転炉法の技術と理論の発展のあしどりを、その源泉と源流に遡つてたどるとともに、周囲条件あるいは隣接領域を形成する技術分野の動向にも可能な限り目を配って、将来の展望に資することを旨としている。このために、LD 転炉法の変遷を単に事実として羅列するのではなく、その変遷の要因を技術条件、経済条件、社会的背景、技術思想などと関連させてとらえている。

新しい製鋼法の揺籃期とも言われている昨今、本書は、製鋼技術の開発に従事している技術者・研究者はもとより、今後の鉄鋼技術の動向に興味を持たれている多くの方々に、いくつかの示唆を与えるものであると確信いたします。是非皆様の必読書としてご利用下さいますようご案内申し上げます。

1. 書 名 わが国における酸素製鋼法の歴史  
B 5 判, 上製本, 520 頁
2. 価 格 会員価格 5,500 円, 非会員価格 7,000 円 送料 300 円—
3. 申 込 先 日本鉄鋼協会庶務課  
〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 電話 03-279-6021
4. 購入手続 書籍の分譲は前納となっておりますので、次のいずれかの方法で、ご送金願います。
  - (1) 現金書留
  - (2) 銀行振込 取引銀行 (普通預金)
 

住友銀行 東京営業部 No. 250300	太陽神戸銀行 大手町支店 No. 1000580
第一勧業銀行 東京中央支店 No. 1167361	東海銀行 東京営業部 No. 580348
東京銀行 丸の内支店 No. 080934	三菱銀行 大手町支店 No. 0007984
口座名義・社団法人 <small>ニホンテツコウキョウカイ</small> 日本鉄鋼協会	
  - (3) 郵便振替 (東京 7-193 番)

※銀行振込の際は、入金後に、送金内訳、請求書番号、送付先などを必ず御連絡下さい。